

コマンドカテゴリ	コマンド機能	#	コマンド	備考
文字置換	CSVファイルの文字列を一括変換する	1	chgcsv	
	ファイルの文字列を変換一括変換する	2	chgstr	
	ファイルの文字列を変換リストにより一括変換する	3	chgstr2	Winのみ
	大文字への一括変換	4	upper	
	小文字への一括変換	5	lower	
データ抽出	CSVファイルから条件に一致する CSV データを抽出する	6	csvsel	
	CSVファイルから条件に一致しない CSV データを抽出する	7	csvsel2	
	テキストファイルから条件に一致するテキストデータを抽出する	8	recsel	
	テキストファイルから条件に一致しないテキストデータを抽出する	9	recsel2	
	テキストファイルの任意のレコードを抽出する	10	filisel	
	固定長の大容量テキストファイルの任意のレコードを抽出する	11	filisel2	
	バイナリファイルの任意のデータを抽出する	12	Binisel	
ソート	CSV項目をキーに指定してソートを行う	13	sortcsv	注
	テキストファイルのソートを行う	14	sorttxt	注
	ソート済み CSV 形式ファイルにマージする	15	mergecsv	注 Win, AIX のみ (Linux 予定)
	ソート済みテキストファイルにマージする	16	mergetxt	注
マッチング	2つの CSV ファイルをマッチングして一致する CSV データを抽出する	17	csvmat	
	2つの CSV ファイルをマッチングして一致しない CSV データを抽出する	18	csvmat2	
	テキストファイルをマッチングして一致するテキストデータを抽出する	19	reemat	
	テキストファイルをマッチングして一致しないテキストデータを抽出する	20	reemat2	
レイアウト変換	CSVファイルの任意の項目をパターン変換する	21	csvexp	
	CSVデータのレイアウトを任意の形式に変換する	22	csvedt	
	テキストデータのレイアウトを任意の形式に変換する	23	recedt	
	テキストデータのレコードを複数に分割する	24	recspl	
データ形式変換	CSVデータを固定長のテキストデータに変換する	25	csvrec	
	固定長のテキストデータを CSV データに変換する	26	recsv	
	可変長のテキストデータを固定長のテキストデータに変換する	27	verfix	
	改行文字のないファイルに指定バイト単位に改行文字を挿入する	28	verfix2	
ファイル分割・結合	ファイルを分割する	29	filispl	
	2つのファイルをキー指定で結合する	30	trrmst	
データ集計・重複調査	CSVデータの項目を集計(マージ)する	31	csvcmp	
	CSVデータの重複項目を削除する	32	csvcmp2	
	テキストデータの項目を集計(マージ)する	33	reccmp	
	CSVファイルの重複レコードをカウントする	34	csvdup	
	テキストファイルの重複レコードをカウントする	35	recdup	
項目値検査	ファイルのパターン定義で検査する	36	patmat	
データマスク	CSVデータの項目をマスクする	37	csvmsk	
プリプロセッサ	プリプロセッサ	38	prepro	
コードコンバータ	JEF,UTF-8,UTF-16 と Shift-JIS の相互コンバータ	39	jefcnv	Winのみ
			utf8cnv	
			unicnv	
日数計算	基準日からの日数の加減算を行う	40	calynd	
プログラム起動	ファイルの出現を契機にプログラムを起動する	41	ftpmgr	
	時間指定でプログラムを起動する	42	timgmr	Winのみ
リモートシェル	クライアントからサーバへプログラムの実行を依頼する	43	rcvjob	Winのみ
			sndjob	
レコード調査	ファイルを16進数でダンプする	44	filidnp	
	ファイルのレコード数をカウントする	45	recont	
	ファイルのレコード数をカウントし標準出力に表示する	46	Lincont	Winのみ
ファイル削除	指定された期間を経過したファイルを削除する	47	Fidel	
試験データ作成	大容量の試験用のデータファイルを作成する	48	crtfil	
			Crttxt	
			Crtcsv	
ファイル暗号化	ファイルを暗号化・復号化する	49	rjnenc	

※注：コマンドウィザード画面にはありません

対応 OS

OS	OSバージョン	対応状況	OS	OSバージョン	対応状況
Windows	Windows 2000 Professional	○対応	Solaris	Solaris 10 (UltraSPARC ベース)	○対応
	Windows 2000 Server	○対応		Solaris 10 (IA32 および x64)	△予定
	Windows Server 2003	○対応			
	Windows Server 2008	○対応	HP-UX	HP-UX 11i	○対応
	Windows XP Professional	○対応	Linux	Red Hat Enterprise Linux 5	○対応
	Windows Vista Business	○対応		Red Hat Enterprise Linux 4	○対応
	Windows Vista Ultimate	○対応		SUSE Linux Enterprise Server 9	○対応
AIX	AIX AIX 5L	○対応	SUSE Linux Enterprise Server 10	○対応	
	AIX 6.1	△予定			

お問い合わせ先

<ディストリビューター>
株式会社ネットワーク マーケティング2部
E-Mail: itone-info@networld.co.jp



<開発・販売元>
株式会社アイ・ティー・ワン 新規事業開発本部
E-Mail: e-it1newbiz@it-one.co.jp



Hyper Command

高度なデータ処理をシンプルなコマンドで実現

ログデータ / POSデータ / 日次・月次処理など企業が抱える大容量ファイルを
超高速で加工・分析するためのコマンドユーティリティ

簡単

インストール後、すぐに使えます。

コマンドなので、引数(データ処理のために必要な条件)を指定するだけです。

セレクト(抽出) / ソート / マッチング / コントロールブレイク(集計)など、47機能を組み合わせ、データを思いのままに加工することができます。

速い

DBチューニングでは到達不可能なパフォーマンスを実現します。

最新のPCLレベル(マルチコア CPU + 高速 HDD)であれば、秒速1000万件の処理速度を実現することも可能です。

実用上、DBのような検索件数の性能上限はなく、検索速度の著しい劣化も生じません。

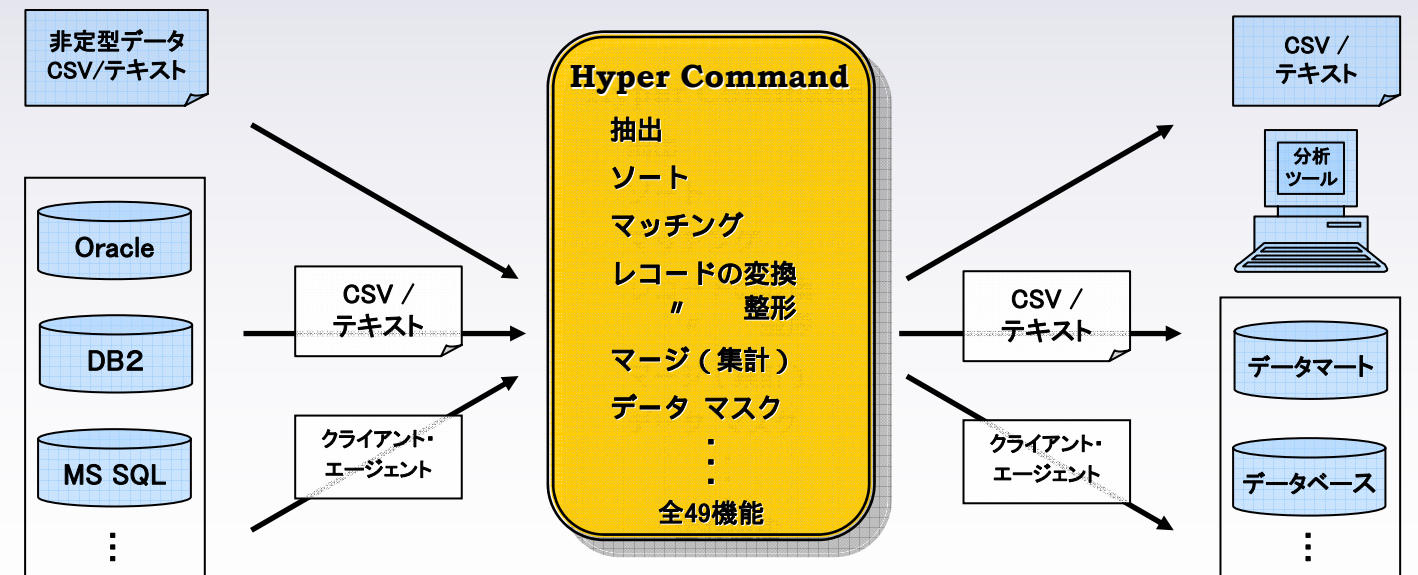
らくらく

業務システムから出力した CSV/テキスト(固定長)データのまま扱えます。

異なるフォーマットのデータを連結/集計する場合も、レイアウト変換機能やデータ形式変換機能を使えば自由自在です。

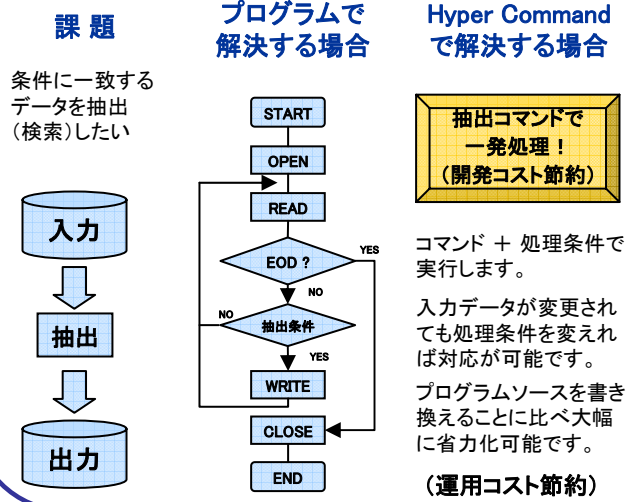
CSV/テキストファイルであれば、直に読み込み対象として処理(別ファイルとして)出力します。LOAD時間は不要です。

入力データの変化/出力データの変更要求があっても、多くの場合は引数を見直すだけで対応が可能です。プログラムでデータ処理をしている場合には、こうは行きません。



Hyper Command 特長

コストダウン



パフォーマンス

某商用DBとHyper Commandを用いて開発した分析ツールの比較

抽出条件	某商用DB 使用	Hyper Command 使用
ロード(4000万件)	55時間28分	11分14秒
検索(8000件)	9分11秒	46秒
検索(1000件)	5分25秒	15秒
文字列、日付検索(1593件)	8分14秒	32秒
4000万件のデータ保持に必要なデータ量 ※ログ保管場所となるストレージを節約	300GB	15GB

10~20倍の向上

H/Wの性能を極限まで引出すアルゴリズムにより可能としました

新技術

既存のソートとは別次元のソート(システム開発者にお勧め)

▶ 複数キー指定、キー毎の昇順・降順指定可能

▶ 数値でのソートが可能

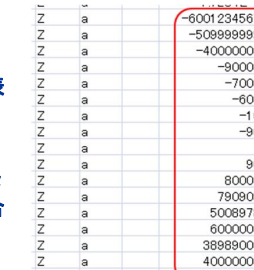
(ソート結果CSVをEXCELで表示)

数値データの桁数を合わせなくてもよい

※ カンマや通貨記号を含んでも数値としてソートします

▶ 複数種類のセパレータを文字、16進コードで指定可能

Windows版・AIX版のみ提供です(Linux版 計画中)

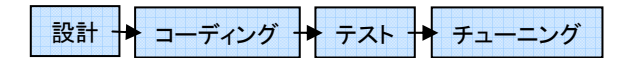


コラム

Hyper Commandに含まれるコマンドを自社開発するケースを想定してみましよう

Hyper CommandはGUIを廃しコマンドに特化することで低価格を実現しました。

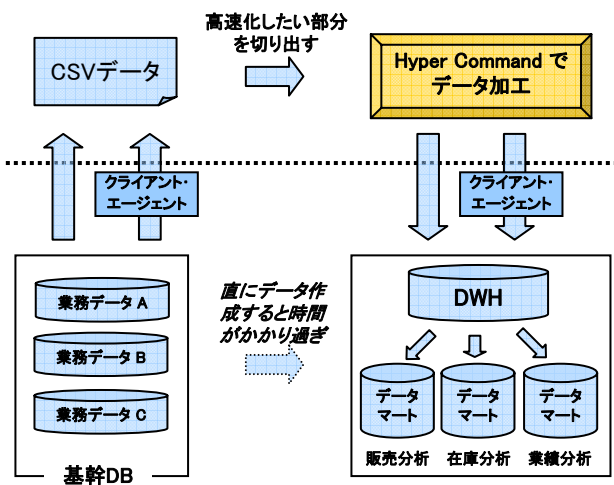
これらのコマンドと同様の機能を手組みで開発するには、ひとつのコマンドあたり1000ステップを超えるプログラミングが必要です。また、データ処理速度のチューニングには更に時間を要します。



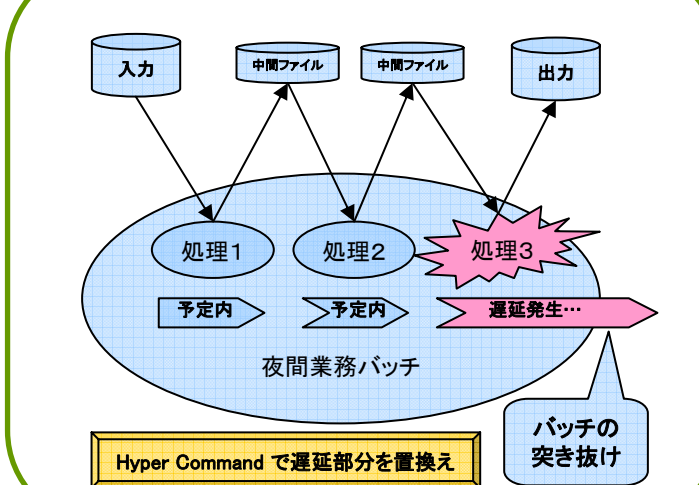
Hyper Commandを部分的にでも用いることにより、該当部分のプログラム開発コストを50%~90%削減していただくことも可能です。

Hyper Command 利用ケース

データマート作成



バッチ処理遅延対策



ログ・トレーサビリティ

膨大なログから情報を発掘・分析

- ▶ アクセス履歴・トランザクション履歴などの証拠トレース
 - ▶ ウイルス感染アラートの調査
 - ▶ デジタル・フォレンジック
- 予算を抑えて、ツールを内製する際の処理エンジンとしてもご利用が可能

(例) 監査ログの追跡調査

PC操作履歴データから

PC使用開始時刻と最終時刻を推定(その後、出退勤データと照合)

ユーザー名	日付	最初のログ時刻	最後のログ時刻
77 User001	2008/11/7	9:07:59	18:40:30
78 User002	2008/11/4	9:57:19	17:01:08
79 User002	2008/11/5	9:54:18	17:00:58
80 User002	2008/11/6	9:54:43	17:00:19
81 User002	2008/11/7	9:54:37	17:00:20
82 User003	2008/11/4	9:14:43	20:04:41
83 User003	2008/11/5	9:08:08	18:12:31
84 User003	2008/11/6	9:10:40	18:11:50
85 User003	2008/11/7	9:08:13	18:13:30
86 User004	2008/11/4	9:24:35	20:10:18
87 User004	2008/11/5	9:22:29	19:10:51
88 User004	2008/11/6	9:31:42	19:08:17
89 User004	2008/11/7	9:24:07	19:10:44
90 User005	2008/11/7	13:41:20	17:28:32
91 User005	2008/11/4	9:16:14	20:21:33
92 User005	2008/11/5	9:14:49	20:06:03
93 User005	2008/11/6	9:14:07	19:59:40
94 User005	2008/11/7	9:17:59	20:21:00
95 User006	2008/11/4	9:12:50	18:32:20

プロフェッショナル・ツール

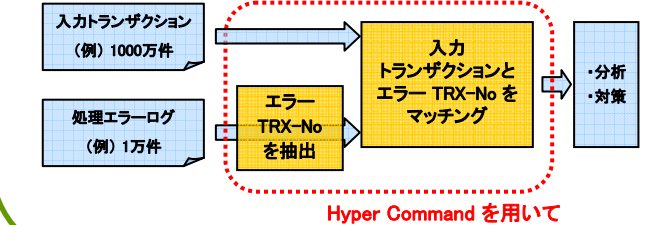
◆ データ処理業・加工業で行う非定型データ処理に

◆ 本番用の試験データ作成時、個人情報の高速マスク処理に

(例) 氏名の先頭2文字を除いて「J」文字へ変換
電話番号の数字を全て「8」へ変換

◆ デバッグツールに

(例) バッチ処理異常時の未処理トランザクション抽出



この性能を体験してみませんか?

弊社ホームページより試用版をダウンロードできます。

<http://www1.it-one.co.jp/current/solution/products/hyper-command/>

コマンドと引数(データ処理のために必要な条件)になれていただくため、自習用教材をご用意しました。試用版ファイル内に格納しております。

- <自習用教材 内容>
- ・ サンプル入力データと定義データ
 - ・ サンプルバッチ
 - ・ サンプル出力データとログ

サンプルデータを用いてバッチファイルを実行しながら、入出力データと確認ポイントを表示します。

製品価格

製品ライセンス価格	900,000円
保守サービス(お申込みは任意)	年間 90,000円

(税別)

インストールするOSベースでの課金です。

(検証機、コールドスタンバイ、仮想マシンOS毎も対象)

CPU数、メインメモリ容量などハードウェアは関係しません。

同一法人で二本目以降は製品ライセンス料半額 450,000円です。

(保守サービスは定価 90,000円のまま)

保守サービスは製品ライセンスの全ての本数分について必要です。

(製品3本に対し保守1本は不可)

保守サービス内容

- ▶ 技術問合せ
- ▶ トラブルシューティング
- ▶ 修正パッチ Download
- ▶ 新バージョン製品を特別価格でご提供